

シリーズ わがまちの文化財へ9

町重文 丹下氏関係遺品

昭和40年10月30日指定

丹下氏は、備後地域の梵鐘づくりの職業集団として知られています。もともとは河内国（大阪府）の鋳物師天命家の出と伝えられ、近江国の丹下村に住み、草部氏と名乗っていました。鎌倉時代末頃から宇津戸に移住し、丹下氏を名乗るようになったと言われています。鋳物業のかたわら、海裏庄うらしのしょうの領家方の役人としても活躍したと推測されています。

この丹下氏が使用していた鋳造鋳型や各種道具類、鑑札、御用札などが町に寄贈され、現在大田庄歴史館にその一部が展示されています。

名工として知られた丹下氏ですが、太平洋戦争による供出なども影響し、世羅町周辺で確認された江戸時代の丹下氏の梵鐘はわずかに八鐘です。現存する丹下氏が作った梵鐘の最古のものは、今高野山龍華寺のもので、この梵鐘も町指定重要文化財に指定されており、大晦日にはこの鐘の音が聞かれます。



シリーズ わがまちの文化財へ10

町天然 ムクロジ

昭和58年4月1日指定

山中福田八幡神社の境内にあるムクロジは、根回り3m 30cm、胸高幹囲2m 60cm、樹高約25mの巨木です。

ムクロジは、本州の茨城・新潟を北限とし、四国・九州をはじめアジア東南部に広く分布する落葉樹です。県内にも広く分布していますが、自生と思われるものは少なく、多くが神社などに植栽されたものです。町指定のムクロジも、おそらく神社の境内地にあることから、植栽されたものと考えられます。これは、ムクロジの実が昔は羽根つきの球や数珠玉としてまた、果実の皮から抽出した液が、石鹸としてなどさまざまな用途に使うことができたためと思われる。

このほか山中福田八幡神社の社叢には、県指定のウラボシガシをはじめモミヤサカキ、イヌシデなどの巨木が優れた自然林の面影を残しています。

